

# 行政区・ここが知りたい!

矢板市にある67の行政区。このコーナーでは、かわら版記者が各行政区独自の特色と取り組みを紹介していきます。

## 川崎反町行政区

■「歴史あふれる、きれいな町並みづくりに取り組み」と守田区長が話してくれました。

### ■歴史ある街並み

古くは川崎城の城下町として、そして江戸中期に会津中街道が開通されて宿場町としてにぎわった集落でした。

そこで「この川崎城跡公園の玄関口の歴史ある



雪化粧した川崎城跡公園

川崎反町を明るいきれいな町にしよう」と、数年前から住民が計画し、周辺の草刈りや道普請がはじまりました。

### ■地域コミュニティ推進事業に取り組んでいます

昨年度から矢板市で「地域コミュニティ推進事業」がスタートしたのを機に活性化プランを企画・提出。市からの助成を得て活動を始めました。

初年度は全世帯が参加し、公民館や育成会の協力で公民館周辺の側溝にU字溝を埋め、その周りに花の咲く木を植える活動から始めました。

今年度からは川崎城跡公園へ通じる小道を整備し、案内板を設置することを予定しています。

また毎年十月には、「ふれあいまつり」を実施し、学校、結婚や就職などで市外に出ている家族を呼び寄せ、バーベキューや焼きそばを食べ、ゲームを楽しみ、ふるさとをいつまでも思い出しもらう集いを実施しています。

### ■伝統の七夕飾り

川崎反町にはもう一つの名物、昭和初期から続けられている「七夕飾り」があります。

以前は、家並みに沿って八十数本の竹を飾っていましたが近年はその数が減ってきているそうです。その理由のひとつは、飾りに使う真竹の入手が困難になっているとのことです。(どなたか竹を提供してくれる人をご紹介下さい)

「このほかにもこの川崎反町には有形、無形の歴史的な遺産が多くあるのでこれらにも再び目を当てたい」と守田区長は熱弁されました。

(注) 矢板市「地域コミュニティ推進事業」とは：支えあいや助け合いの精神で愛着のある地域社会の再生を目指す、自立した地域コミュニティ活動を継続的に進める活性化プランを、地域の住民みんなで確認し実施することに対して矢板市から助成が出る。



区民ふれあい祭り

## 豊田行政区

### ■矢板市の東部で大田原市、さくら市に隣接している豊田行政区。地域コミュニティ活動モデル地域に市から指定(三地区の一つ)され、「結い(老人会)」の郷づくりに取り組んでいること、山本区長を訪ねました。

### ■「結い」(老人会)の郷づくりの立ち上げ

市から地域コミュニティ活動モデル地域に指定されたこともあり、60代の区民を主体とし「結い(老人会)」を立ち上げ、その組織を「自主防災」「高齢者の生きがいづくり」「児童放課後の活動支援」「將軍塚の整備」に生かしていくこととしています。

そのうちのひとつ豊田小学校の問題として、平成22年度の新入生が、学童保育がないため全員他校に入学し、小学生が10人ほど減ってしまう悩みがあります。このことは、将来住民の減少に繋がる恐れがあるので、子どもが安心して放課後過ごせる「子ども教室」や「学童保育」の設置に向け、豊田小学校の校区内であ

る成田や沢の区長と共同で矢板市長あてに要望書を出しました。「結い」としては、子どもが安心して通学できるよう、中心になって支援活動を展開することとしています。

■將軍塚の史跡の整備  
將軍塚は、八〇二年征夷大將軍坂上田村麻呂が蝦夷征伐の采配をとったところと言われています。戦いに備えた名残として「烹飯(にまま)」「矢櫃(やびつ)」「馬立(またて)」などの小地名があり、矢櫃付近から矢の根(鉄)づくりの鉄くずが出土しています。(矢板市史)

現在、その將軍塚の整備にも「結い」のメンバーが中心となって取り組んでおり、一年中花の見られる公園を目指しています。今年



將軍塚の整備の様子



將軍塚

になってすでに二回にわたり、区民の有志から提供を受けた彼岸花千株、水仙三千株を植えています。そのうち二月三日はメンバー10人が参加して汗を流したというところ。五月の連休明けには桜の木を植樹しオーナーを募集する予定です。

### ■住みやすさが自慢

豊田地区は、わき水や河川にも恵まれ、しかも人の心が温かい地域のためか、婿さんを迎えている家が10数軒あり、その多くは勤務先で相手を見つけてきたとか。豊田地区の女性は魅力たっぷり、他地域の男性に兼業農家もいとわないと思わせるのかも?

山本区長は「この地区は、人の縁や和を大切にしているから住みやすいところですよ」と、自慢げに話してくれました。

(H)